

1 市民意見公募の実施状況と結果について

(1) 公表した案

「立川市第3次発達支援計画素案」

(2) 案の公表場所

市ホームページ、企画政策課窓口、立川市役所1階ロビー総合案内・3階市政情報コーナー、窓口サービスセンター、女性総合センター、子ども未来センター、たましんRISURUホール（市民会館）、連絡所、学習館、学習等供用施設、図書館

(3) 意見提出期間

令和7年4月1日～令和7年4月21日

(4) 結果

ア 提出者数 3名

郵送	ファックス	Eメール	HPフォーム	来所
0名	0名	0名	3名	0名

イ 意見の件数 19件

全体に関わる こと	第1章 計画の策定にあたって	第2章 本市の状況について	第3章 立川市第2次発達支援計画 の取組・成果と課題	第4章 本市の発達支援における 理念と機能	第5章 8つの機能の役割	その他
0件	0件	0件	0件	0件	19件	0件

ウ 市の回答結果

意見を反映するもの	市の考え方を説明するもの	その他
0件	18件	1件

※1名の方から複数の意見が提出されている場合は、それぞれの内容ごとに件数をカウントしています。

2 意見と市の考え方について

(1) 意見を反映するもの（0件）

整理番号	該当箇所	意見	市の考え方

(2) 市の考え方を説明するもの（18件）

整理番号	該当箇所	意見	市の考え方
1	第5章 取組項目1 乳幼児 健診後の相談	多くの保護者が相談を受けて救われている一方で、この相談で「寄り添ってもらえなかった」「傷つけられた」と感じた保護者の声が一定数挙がってきています。その声を受け止めていただき、『保護者の気持ちに寄り添いながら』『受け止め方に配慮しながら』の相談に必要なスキルアップを目指していただきたいです。保護者に直接対応する機会のある職員の皆様に対しては、保護者の声を聞く研修もぜひ実施していただきたいです。	乳幼児健診や家庭訪問を担当する職員を対象に従事者研修を実施しており、その中には傾聴や対話に関するプログラムも含まれております。 健診後の相談につきましては、限られた時間ではありますが、保護者の方々の心配ごとや困りごとの解消に努め、安心して子育てできるようサポートしてまいります。
2	第5章 取組項目3 5歳児 相談	ぜひ希望制の相談ではなく、5歳児健診の実施を目指してください。また、ただ健診を行うだけでなくそれを活かすために、フォローアップ体制も同時に構築してください。大分県竹田市では、健診後に発達不安のある家庭を支えるための相談会を2か月に1回実施、その相談会は医療（OT、ST、心理職など）、福祉、教育の関係者がいることで相談会の場で適切な支援につながることが可能となり、ワンストップ支援となっているそうです。	ご意見のとおり、5歳児健診については、心身の発達をチェックするだけでなく、フォローアップ体制の構築も不可欠であると考えております。実施にあたっては、様々な機関の連携・協力が必要となることから、先行自治体の取組などを調査・研究してまいります。
3	第5章	発達特性が背景にあり教育相談を受けるお子さんの中に	教育相談にあたっては、発達相談等の情報を共有のう

	取組項目 6 教育相談	は、就学前に乳幼児健診や親子相談、発達相談にかかった経験のあるケースもあります。その内容が教育相談に共有されていますでしょうか？もしされていないなら、ぜひデータベース化して、現場の職員の皆様の負担が少なく情報できる仕組みを構築してください。保護者に過去の経緯を聞かれることもあります。専門家ではない保護者にとって、必要な情報を記録して適切に教育相談で伝えることは難しく、また心身に負担がかかることです。（本来はそこでサポートファイルが役に立つのですが…なかなか保護者が活かしきれていないのが現状です。）	え実施しております。サポートファイルについても、活用を促進するため、内容の充実や利便性向上の検討を進めてまいります。
4	第 5 章 取組項目 12 保育園や幼稚園への障害児の受入	保育園、幼稚園で支援体制に大きな差がある。 結果、支援が必要な子どもは保育園に集まり、現場は勉強を重ねて専門性は高くなる傾向にある。 幼稚園は定型児メインの児童が成り立つので保育園ほど専門性を必要としないのではないかな。 子どもにとっても大人にとっても、定型児、発達凸凹児が混在する社会(クラス)が多様性を認め合う経験へと繋がるのではないかな。 幼稚園、保育園の平等な支援体制の強化を望みたい。	本計画における「発達支援のための 8 つの機能」の「現場職員支援機能」などにより、保育園と幼稚園双方の支援体制の強化に取り組んでまいります。
5	第 5 章 取組項目 12 保育園や幼稚園への障害児の受入	この数年、立川市の幼稚園で発達に不安がある子の入園を断るケースが増えていて、多くは市外の幼稚園に入園せざるを得なくなっています。受け皿として保育園を勧められたケースもありますが、保育園は人手不足や難しいケースの園児の増加で過重な負担がかかっています。また、元々育児に不安や負担を抱えている保護者が保育園入園のために希望していない就労をするケースもあります。発達に不	本計画における「発達支援のための 8 つの機能」の「現場職員支援機能」などにより、発達に不安がある児童の受入先の確保に取り組んでまいります。

		安がある幼児の受け入れ先は、立川市の子育て支援の中で最重要課題のひとつだと感じています。	
6	第5章 取組項目19 就学支援シートによる情報提供	就学支援シートの書き方の仕様がもっとシンプルでもよい。 書く方も見る方も取り組みやすい。	就学支援シートについて、就学前の情報を引継ぎ、就学後の計画に反映できるよう、引継ぎ方法等について研究・検討を進めてまいります。
7	第5章 取組項目19 就学支援シートによる情報提供 取組項目21 就学支援シートを活用した連携	園や保護者、医療機関から学校への情報共有はとても重要ですが、せっかくのその情報が活かされていないのが現状です。理由として、保護者側からは「何をどう書いていいかわからない」「困っていることの羅列になってしまう」学校側からは「情報量が多く（または少なく）学校がほしい情報が簡潔にまとめられていない」「個人情報の管理が厳しいのでしまい込まれてしまい、必要な時にすぐ見られるようになっていない」と聞いております。 必要な情報を保護者にもまとめやすい様式としては、東大阪市のサポートシートが参考になると思います。（項目立てされていて、該当するものにチェックする→それについて書き足す）また、インターネット上で入力、送信できるシステムが構築されれば（セキュリティの課題が大きいと思いますが）データベース化して、学校現場やその他関係各所（学童など）にも共有しやすく、その後の個別支援計画などに更新していきやすいのではないのでしょうか。	就学支援シートについて、就学前の情報を引継ぎ、就学後の計画に反映できるよう、引継ぎ方法等について研究・検討を進めてまいります。
8	第5章 取組項目22 児童館や学童保育所と就学前にかかわっていた	立川市学童の巡回相談に従事しておりますが、学童保育所では、保育園や学校の多忙さに配慮して、なかなか情報共有の機会をお願いできずにいる所もあると聞いております。学校との連携が必要なケースも多く、でも学校や学童	各施設の多忙さや数の多さなどが課題と認識しておりますが、途切れ・すき間のない支援に向け、関係機関との連携をより密にしていまいります。

	機関との情報共有のしくみの検討 取組項目 23 児童館や学童保育所等との学校との情報共有	の先生方の多忙さも目の当たりにしているので、もどかしさを感じております。 せめて入学前と夏休みの年2回、地域の小学校・学童保育所（入学前は幼・保も）の連絡会議を設けられないでしょうか。その場で顔をつなぐことによって、その後必要になった時に連絡を取りやすくなるはずです。	
9	第5章 取組項目 27 将来の見通しが持てる保護者への情報提供	今まで市内学習館で行われていた発達支援啓発講座「就学前に知っておきたいこと」「ママ・パパの立場で」「進学に向けて先輩に聞いてみよう座談会」が、今年度は内容の見直しで白紙となりました。ですがこれらの講座は、当事者や先輩保護者から体験談を聞いて将来への見通しを持つことができる貴重な機会として、たくさんの参加者から好評をいただいております。計画の取り組み項目となっているにもかかわらず、なぜ白紙になったのか、理由があるなら公表していただきたいです。また、これらの講座の復活と継続をどうぞよろしくお願いいたします。	地域学習館の講座事業については、多岐にわたる社会課題や多様化するニーズに対し、より多くの市民の皆さまに開かれた入り口をご提供したいと考えております。そのため、これまであまり取り上げていなかったテーマを、より平易に学んでいただけるよう、“広く・浅く”とらえる方向で見直しを進めているところです。一方、発達支援の理解啓発にあたっては、これまで一定回数の開催を経たことで、入門的な学習だけではなく、支援が必要な家庭へ専門的な知識や技術を伝えるとともに、子ども本人や保護者の気持ちを支える取組も重要であると認識しています。従前とは異なる開催形態となる見込みですが、何らかの形で先輩保護者の貴重で有用な体験を当事者に届ける仕組みを作るなど、発達支援団体等と連携しながら、検討してまいります。
10	第5章 取組項目 29 サポートファイルの周知と利用促進	周りの保護者からは「使いづらい」「文章を書く項目が多く、作成や継続が負担」と言う声が多く、実際に活用されていないと感じています。（もしくは、関連書類を綴じたファイルにシールを貼っているのみ） 支援現場の職員から、「今のお母さんたちは字を書くことを	サポートファイルについては、国や都の動向、各市の事例等を研究しつつ、電子化も視野に入れ、内容の充実や利便性向上の検討を進めてまいります。

		負担に感じるけど、スマホを使い慣れているから、アプリにすればいいのに」という声がたくさん出ていました。データにすることで更新もしやすくなり、必要に応じてデータ送信やプリントアウトで各所への共有もしやすくなります。 内容の充実というよりは精査していただき、先進例を参考により使いやすいニーズに合ったものにしていただけたらありがたいです。	
11	第5章 取組項目33 発達支援団体との連携	キラリっこファミリーカフェさんには子どものことで困った時に相談させていただいたり、立川市の発達障がいの子ども達に対するいろいろな情報をいただいたりしています。 また、子供に手が掛かってしまい社会貢献をする余裕が無い状況の中、このような環境に理解のあるキラリっこさんのお手伝いを時々させていただくことで、自分も少し役に立つことが出来たという自信をいただいています。 このような組織を今後も継続していただけることを心よりお願いさせていただきたいと思います。	保護者の支援や理解啓発のため、発達支援団体が市とともに連携協力して活動できるよう支援しながら、協働してまいります。
12	第5章 取組項目33 発達支援団体との連携	これまで学習館や（前）子ども家庭支援センターは、市内の発達支援団体と連携しておしゃべり会や講座、啓発事業を実施してくださいました。ですが、支援団体自体が人手不足や資金繰りの難しさを抱えていて、継続が苦しい状況が続いています。 支援団体は、市が難しいオンライン講座の開催や保護者同士のSNSによる情報共有などを担っております。もしそれを評価し継続を期待してくださっているなら、どのように	発達支援団体への具体的な支援内容については、団体との対話を通して検討してまいります。

		活動支援してくださるのかを具体的に検討していただきたいです。	
13	第5章 取組項目34 保育所等訪問支援事業	この事業は保護者からも園現場からもニーズが高く、委員長の星山先生もおっしゃっていたように今後の発達支援に重要なポイントとなる事業と感じております。現状では市職員が他の業務と兼任で実施すると聞きましたが、実際にはいかがでしょうか。すでに発達相談や療育グループ事業も需要が高まり職員の皆さんの負担が増している中で、この事業の兼任は、共倒れになる危惧を抱いております。今後の展望として、訪問支援事業の専任者を市職員として雇用し育成、発達相談係と連携して実施できるようにしてほしいと願っております。	保育所等訪問支援事業は、同様のアウトリーチ事業である巡回保育相談や5歳児相談を行っている心理職や保育士が担当いたします。事業の開始にあたっては、実務経験のある有識者による研修を受講させるなど、一層の専門性向上に努めてまいります。
14	第5章 取組項目36 保育士・幼稚園教諭の発達支援研修 取組項目37 学童保育所・児童館職員の障害児研修 取組項目38 スキルアップのための研修用資料の活用	研修に講師側として参加したことがありますが、平日午後の対面講座を開催しても多忙な園職員の出席率は決して高くないようです。 項目38にもあるように研修を配信して園研修に使ってもらえるようにしたり（今はさまざまな媒体で契約すれば使える素材を発信しています）、都の保育士ステップアップ研修の活用、民間研修参加の補助金を出す、ポイント制にして参加のモチベーションが高まる体制を整える、等現場の先生方の負担を極力減らしながら研修できる工夫に取り組んでいただきたいです。	オンラインの普及などによる研修手法の多様化に対応するとともに、対面研修も含め各手法のメリット・デメリットを踏まえたうえで研修を企画してまいります。また、オンデマンド環境の整備など現場職員の負担に配慮した取組も検討してまいります。
15	第5章 取組項目45 発達支援の必要な子どもへの保育園・幼稚園で	数年前になりますが、本人のためという名目で（本人は参加する気持ちがあるにも関わらず）、イベントの練習や本番への参加を控えるように園からお願いされるということがあったと聞きました。	発達段階や特性への配慮をはじめとした合理的配慮について、引き続き啓発に努めてまいります。

	の療育的取組 それに対して、保護者の方は園に配慮をお願いできるということを知らなかったために話し合いなどはせずにそれらの依頼を受け入れてしまっていたそうです。 そのため、入園・入学時などのタイミングで保護者側からこんな相談をすることができるということ、また園・学校(園に関する項目ですが、学校も同じだと思うので入れさせていただきました)では生活に困難を抱えている子に対してどのような対応をすることを推奨されているということを保護者にもわかりやすく伝えることができたらいと思いました。 現状、発達障がいについてのプリントなどにはそのようなことが書かれていたりもするのですが、入園・入学時には子どもの特性を疑わずに読んでいない人もいると思うので。 また、最近病院やお店などで、カスハラ行動を明示して患者やお客さんに対して注意を促しているポスターなどを見かけるようになったのですが、同様に保育士さんや先生に対しても、このような行為は問題視させていただきますということを明示できると、周知の結果過度な配慮などを求められた場合にも先生達への負担が少し減るかもしれないと思いました。 ご検討のほど、よろしく願いいたします。	
16	第5章 取組項目 45 発達支 数年前まで、チャイルドフッドラボの藤原里美先生を講師として「特別支援コーディネーター育成研修」を実施して	各園においてコーディネーターを中心に療育的な取組やかかわり方の浸透が図られており、研修の成果は

	援の必要な子どもへの保育園・幼稚園での療育的取組	いたと聞きました。ですが研修が終了し、せっかく育ったコーディネーターさんを現場で活用する仕組みがない、とも聞いております。 ぜひコーディネーター育成を復活・継続していただき、その職員が園内で療育的な取り組みやかかわり方を職員に提案していけるようにしてください。	一定程度共有されていると認識しておりますが、引き続き、児童発達に係る知識や技術の向上と継承に努めてまいります。
17	第5章 取組項目46 障害児対応職員の加配（認可保育園） 取組項目47 障害児対応職員の加配（幼稚園）	幼稚園現場に聞いたところ、加配にあたるような人員が見つからない、補助金が少なく加配職員を雇用するには園財政の負担が大きすぎる、という理由でなかなか進んでいないそうです。 市として、加配に携われるような人員の育成をぜひ行ってください。委員長の星山先生が携わっている「鎌倉市かまくらっ子発達支援サポーター制度」を参考に、市民や経験者、現役支援者が発達支援について学び、園や学校に支援者として入っていけるような仕組みを整えることは、様々な場面で活用できると考えます。	加配も含む職員体制の確保に向け、ご紹介のあった鎌倉市のほか、他市の事例などを調査・研究してまいります。
18	第5章 取組項目55 発達支援に関する講座	取組項目33…発達支援団体との連携でも触れましたが、昨年まで実施されていた学習館や子ども家庭支援センター主催の発達支援に関する講座が今年度は白紙になりました。開催をお願いしましたが、今年度は予算が取れていないということで、やむなく市民団体が予算を負担し一部を開催することになりました。ですが、このまま市民団体の負担での開催に流れていくことは絶対によくないと考えます。市民団体はあくまでも無償ボランティアで助成金に頼りながら活動しており、いつ成り立たなくなるかわかりません。また市民の目からは、「今まで市の主催だったから安	地域学習館の講座事業については、多岐にわたる社会課題や多様化するニーズに対し、より多くの市民の皆さまに開かれた入り口をご提供したいと考えております。そのため、これまであまり取り上げていなかったテーマを、より平易に学んでいただけるよう、“広く・浅く”とらえる方向で見直しを進めているところです。一方、発達支援の理解啓発にあたっては、これまで一定回数の開催を経たことで、入門的な学習だけではなく、支援が必要な家庭へ専門的な知識や技術を伝えるとともに、子ども本人や保護者の気持ちを支え

	心して参加していたのに」「急に市の主催ではなく団体の主催になった。市は丸投げしたのか」と見えます。(実際、このことを知っているスタッフからは、すでにそのような声が出ています) 市の計画として明記している以上、今後も予算を取って市の主催で開催する責任があるのではないのでしょうか。来年度は復活するよう、どうぞよろしくお願いいたします。	る取組も重要であると認識しています。従前とは異なる開催形態となる見込みですが、何らかの形で先輩保護者の貴重で有用な体験を当事者に届ける仕組みを作るなど、発達支援団体等と連携しながら、検討してまいります。
--	--	--

(3) その他（参考意見として庁内で共有するもの）（1件）

整理番号	意見
19	参加させて頂いた講座についての感想です。 「就学前に知っておきたいこと」 不安でいっぱいだった凸凹っ子育て、就学前の時期に希望を教えてもらえた講座でした。親が子どもに出来ること、マインドを教えて頂き前向きに子育てができるきっかけになった講座です。私にとって思い出の講座です。 「進学について先輩に聞いてみよう」 少し先を歩いている、先輩ママ、または学生の先輩達の話はとても心に響き、今後の進路を考える参考になりました。 また、改めて本人を取り巻く環境の大切さも確認することができました。 ここの講座でなければ聞けない貴重なお話を聞かせてもらえたことに感謝です。